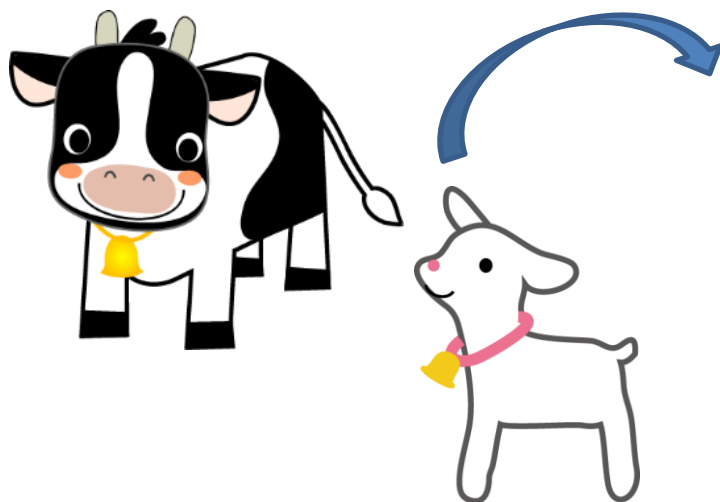


注意を要する感染症（ふれあい動物：ウシ、ヤギ、ヒツジ）



唾液、糞便を介した感染

サルモネラ症

〈症状〉

- ・腹痛、下痢、嘔吐などの食中毒症状
- ・まれに、高熱、頭痛、意識低下、けいれん等の重篤な症状を呈することがある

腸管出血性大腸菌感染症

〈症状〉

- ・腹痛、下痢、嘔吐などの食中毒症状
- ・重症化すると、激しい腹痛と血便を主症状とする出血性大腸炎を呈する
- ・まれに溶血性貧血、血小板減少及び急性腎不全を3主徴とする溶血性尿毒症症候群（HUS）を併発し、死亡することもある

- 多くのふれあい動物から腸管出血性大腸菌が検出されています。

動物とふれあった後は、必ず手洗いなどをしましょう。

予防方法

- 動物の糞便を適切に処理する。
- 動物との過剰なふれあいを避ける。
- 動物と接触した際には、手洗いを励行する。
- 幼児等が動物に接触する場合は、監督者による監督のもとで行わせる。



コラム

酪農体験イベントで発生した 0157 の集団感染

2009年9月、酪農関係団体が主催する消費者交流イベントの参加者から 0157 患者が発生しています。患者は、いずれもふれあい体験に参加しており、会場内の子牛にふれた手を介して経口感染したと見られています。

動物にふれた後は、必ず手洗いをして感染予防に努めましょう。

Ⅲ 動物由来感染症の予防対策

日常生活で注意すること

イヌの登録と予防注射等

飼主には狂犬病予防法で飼犬の登録と毎年
の狂犬病予防注射、鑑札と注射済票の装着が
義務付けられています。



過剰なふれあいは控えましょう

細菌やウイルス等が動物の口の中にあるこ
とがあるので、口移しで餌を与えたり、スプ
ーンや箸の共用は止めましょう。動物との入
浴や布団に入れて寝ることも、濃厚接触とな
るので止めましょう。

動物にさわったら、必ず手洗い等をしましょう

動物は、自身には病気を起こさなくても、ヒトに病気を起こす
病原体を持っていたり、動物の毛にカビの菌糸や寄生虫の卵
等がついていることがあります。また、動物やその唾液にふれ
た手で、知らないうちに自分の目や口、傷口等をさわってしま
うこともあるので、動物にふれたら必ず流水で手洗い等をし
ましょう。その他、動物から排せつされた糞などから病原体を
吸い込むこともあるので、注意が必要です。



動物の身の回りは 清潔にしましょう

飼っている動物はブラッシング、つめ切り
等、こまめに手入れをするとともに寝床も
清潔にしておきましょう。小屋や鳥かご等
はよく掃除をして清潔に保ちましょう。タ
オルや敷物、水槽等は細菌が繁殖しやすい
ので、こまめな洗浄が必要です。

砂場や公園で遊んだら 必ず手を洗いましょう

動物が排せつを行いがちな砂場や公園は注意
が必要です。特に子供の砂遊び、ガーデニング
で草むしりや土いじりをした後は、十分に手
を洗いましょう。また、糞を見つけたら速やか
に処理しましょう。

糞尿は速やかに処理しましょう

糞尿で病原体が増殖したり、糞尿が乾燥して
中の病原体が空気中を漂うことがあります。
糞尿に直接ふれたり病原体を吸い込んだり
しないよう気を付け、早く処理しましょう。

室内で鳥を飼育する時は 換気を心がけましょう

羽毛や乾燥した排せつ物、塵埃等が室内に充満
しやすくなります。ケージや室内のこまめな清
掃のほか、定期的な換気に努めましょう。